

## 平成26年産米の刈り取り適期予測について

(一関農業改良普及センターからの情報)

作付け品種の単一化や土日作業が集中すること等により、刈り取り適期を逃す傾向があります。良質・良食味米生産のためには、圃場の登熟状況に合わせた作業日程を事前に計画し、適期に刈り取りを進めることが大切です。

### 刈り取りは、圃場毎の籾の熟色(黄化程度)を必ず確認してから開始しましょう。

○刈り取り適期は

- ①コンバイン刈り取り・機械で乾燥する体系の場合、青未熟粒等の発生を防止するため穂の**85～90%**の籾が黄色くなった頃(穂基部の一割程度が緑色)が目安となります。
- ②バンダー刈り取り(自然乾燥)の場合は、ハセ掛け等の乾燥中に籾の黄化が少し進むため、穂の**80～90%**の籾が黄色くなった頃が目安となります。

○積算気温から算出した刈り取り開始時期は

- ①今後の平均気温が平年並の場合**9月11～26日頃**と予測されます。
- ②平均気温が平年より2℃高い場合は**9月9～22日頃**と予測されます。

上記の予測をおおよその目安として収穫作業の準備を進めて下さい。

※ただし、積算気温による方法は栽培法や日照時間によりズレが生じる場合がありますので、**成熟期の2～3日前頃になったら、必ず圃場毎の籾の熟色(黄化程度)を観察して刈り取り時期を判断して下さい。**

○生育ムラや倒伏、病害虫の発生等により、成熟時期が大きく異なる部分がある場合は、刈分けを行い、品質の向上を図りましょう。

**米は全量JAへ出荷をお願いします！**